

学校概要

創立 68 周年	学校長 生出 宏	副校長 篠原 武	学期 3 学期制	児童・生徒数 928 人
学級数 一般級: 24 個別支援級: 3			主な関係校: 大綱小学校・太尾小学校・大豆戸小学校・菊名小学校	

学校教育目標

「共に学び、自他を大切に、たくましい、心豊かな人を育てます」
 ○将来にわたって学び続ける人を育てます。(知)
 ○自立心にあふれた心豊かな人を育てます。(徳)
 ○心身ともに健やかでたくましい人を育てます。(体)
 ○広く社会に貢献する人を育てます。(公)
 ○横浜を愛し、国際社会の発展に寄与する人を育てます。(開)

学校の特色

- 学区には東急東横線大倉山駅およびそれに隣接した商店街や公共施設があり、学校に対して協力的である。
- 保護者・地域の教育力が充実しており、学校教育への関心も高い。生徒の学習意識、生活意識も高い。
- 本校の卒業生がPTAや町内会自治会のリーダーとして活躍しているため、歴史的にも学校と強い連携体制がある。
- 小中ブロックの連携が充実している。
- 生徒の積極的な挨拶がなかなか定着しない。

学校経営中期取組目標

- 指導力・授業力・組織力の向上により、魅力ある学校づくりを目指します。
- ・認め合い学び合う姿勢を育み、やりがいのある授業づくりを目指します。
- ・困難に立ち向かう姿勢と他者を思いやる姿勢を育み、いじめのない学校づくりを目指します。
- ・挨拶から始まるコミュニケーションを大切に、実生活や将来につながる生活態度を身に付けさせます。
- ・教職員集団としての協働性を尊重して、日常の教育活動を推進します。
- ・保護者や地域との連携を大切にして、地域に貢献しようとする姿勢を育みます。

小中一貫教育の取組

大綱中	ブロック	大綱中学校・大綱小学校・太尾小学校・大豆戸小学校・菊名小学校
9年間で育てる子ども像	○元氣なあいさつができる子ども ○主体的に学習に取り組む子ども ○つながりを創りあげる子ども	
自校の具体的取組	<ul style="list-style-type: none"> ・各教科において、身に付けさせる力の設定とその共通理解を図るための合同授業研究会を実施します。 ・目指す子ども像について、継続的な視点と新たな視点を確認するための合同研修会を実施します。 ・定期の小中ブロック担当者会や人権担当者会の他に、随時の中学校職員による小学校参観を実施します。 	

重点取組分野	取組目標	具体的取組
確かな学力	学校教育目標の「共に学び」のために、主体的・対話的で深い学びの意味を理解し、各教科でその実現を図る。	①校内研究授業週間を継続する。実施時期の最適化と、略式授業案の形式について研究を進めることで、職員意識を高める。 ②生徒による授業評価の研究を継続する。評価項目の内容について見直しを図り、より実効性の高いPDCAサイクルの確立を目指す。
豊かな心	人の話に耳を傾け、自他の存在を認めて大切に、いじめのない豊かな人間関係を育むことができる生徒を育てる。	①生徒会活動の重点のひとつに「いじめ防止プロジェクト」の推進を位置付ける。活動の継続が重要であるが、同時に内容の深化を目指す。 ②相手の存在を大切にする心を育て、その結果として気持ちのこもった挨拶が交わせる生徒が育つことを目指して、道徳の授業研究を進める。
健やかな体	心身のバランスのとれた成長を促すために、健康の維持増進に関する啓発活動を推進する。	①健康に関する学習を広める方法として、外部専門家→学校保健委員会→代表生徒→一般生徒という流れを継続する。 ②運動部における怪我やスポーツ障害に加えて、体育実技の授業における怪我の発生を予防するための活動を充実させる。③昼休みの外遊びを推奨する。
生徒指導	チームとしての意識を高め、情報の収集・共有・共通認識・相互理解のさらなる改善を目指す。	①年間3回設定されている教育相談週間のさらなる充実を目指すため、時期や期間の最適化や、相談手法や内容の研究を進める。 ②生活の決まりや行動のマナーについて、生徒自身がその必要性を正しく認識するための学習機会を設定する。
特別支援教育	各学級担任や学年主任との連携、さらに関係諸機関との連携を積極的に行い、迅速で的確な対応をする。	①特別支援教育コーディネーターと学習指導部の連携を強化し、全授業のユニバーサルデザイン化を目指す。②合理的配慮を実施するための合意形成の成り立ちについて、教職員全体で正しく理解する。 ③児童福祉法の一部改正されたことを契機に、関係諸機関との連携を見直し、強化する。
地域連携	保護者の願いや地域の伝統・文化などを大切にして、各種運営の充実を図る。	①体育祭休日開催の継続、合唱コンクールやオープンスクールの地域へのPR活動、部活動発表会への招待など、積極的に地域に発信するよう心掛ける。 ②保護者・地域との粘り強い連携により、いじめが起らない風土づくりを目指す。
いじめへの対応	生徒一人ひとりが受け入れられていると実感できる環境をつくる。また、生徒の心理や特性を見出すための生徒理解を深め、関係機関との支援体制を整える。	①誰もが安心して教育活動に参加し、授業、学校行事などで自己肯定感高める支援をしていく。 ②校長をリーダーに、定期的な「いじめ防止委員会」を開催し、実態把握、分析を行い、速やかに関係機関と連携をとりながら解決をはかる。
人材育成・組織運営	実践の中で生まれる様々な課題について、安心して語り合える職員室の雰囲気醸成する。	①メンターチームから全職員に対する発信が、よりよい刺激となるよう活動内容を深める。 ②一人ひとりの資質向上がチーム力の向上に繋がるよう、実践力養成に役立つ校内研修を実施する。 ③道徳の教科化に備えて、校内の組織を見直す。